

岐垣國道改築工事概要

岐阜縣土木課長 櫻 井 哲 三

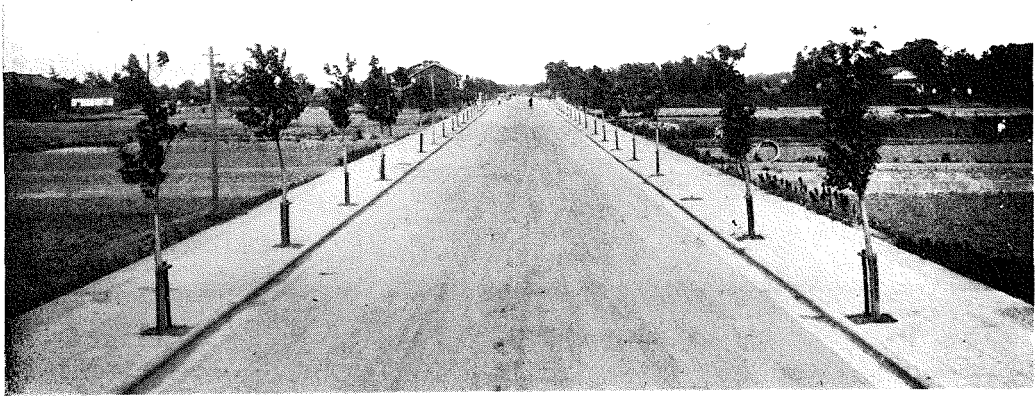
—— 承 前 ——

五、工費及國庫補助

本道路改築工事に要する事業費總額は當初

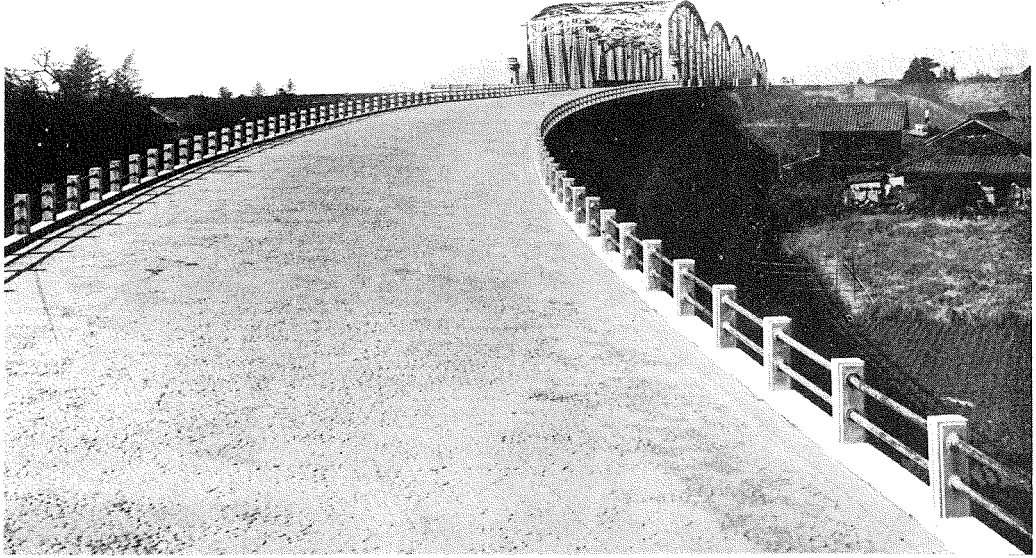
議せしは金3,842,500圓にして内三重縣四日市に本社を有する伊勢電氣鐵道株式會社に於て、地方鐵道敷設の計畫あり、長良、揖斐及

(10) 岐阜市計畫區域(幅員24米60)起點を望む、鋪裝はトバ方式。



(11) 大垣市計畫區域(幅員14米60)終點附近の道路、鋪裝トバ方式。





(12) 稲葉郡日置江村地内長良川堤坂路(橋梁は長良大橋)の粗面舗装。

犀川に架設すべき橋梁を地方鐵道併用橋とし、之れが經費金1,245,242圓を同會社に於て負擔し、其の他は國事補助及縣費を充當する豫定を以て工事施行中の處偶々昭和七年八月同會社は財界の不振に伴ひ前記負擔寄附金は納付困難なる旨を申出、更に同會社は稲葉郡日置江村大字茶屋新田以西安井村大字長澤に至る延長約 5,000 米を國道と併行し地方鐵道敷設工事を國道工事と同時に施行の豫定の處、之れ又前記の事由により、一時工事延期せり。然して前記長良、揖斐兩橋梁架設工事は既定方針に基き工事進捗中にして中途設計變更も爲し難き狀況にありたれば其の儘工事

を進捗せしめ一面犀川に架設する橋梁（墨俣橋）は國道單獨橋と改め、尙地方鐵道併行區間の道路工事は國道單獨を以て完成することに變更し出來得る限り工事費の節減に努め、總事業費金3,141,189圓を以て全工事を完成せり、即ち當初議決總事業費に對し金70餘萬圓を節約することを得たり。

然して事業施行年度は昭和五年度より三ヶ年繼續事業として開始せしが、二ヶ年を延長し昭和九年度迄五ヶ年繼續事業となし、初年度は調査設計に費し、第二年度より本格的に工事を施行せり、事業費支出年度割左の如し。

事業費支出年度別表

| 年 度 | 昭和五年度 | 同 六年度 | 同 七年度 | 同 八年度 | 同 九年度 | 計 |
|-----|-----------|------------|--------------|------------|-----------|--------------|
| 事業費 | 88,798.59 | 872,872.67 | 1,165,924.59 | 951,788.15 | 61,805.00 | 3,141,189.00 |

本事業費に對し、失業應急事業として勞力

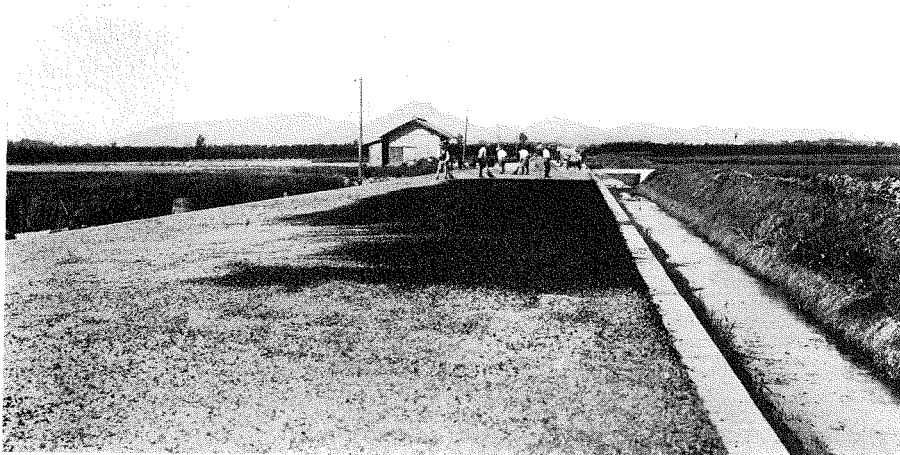
費の二分の一、國道改良事業として、勞力費



(13) 岐阜
都市計画區
域(幅員24
米60)舗裝
工事狀況。



(14) 稻葉
郡鷺村地内
舗裝基礎工
事狀況。



(15) 稻葉
郡佐波村地
内、アスフ
ルト乳劑
舗裝工事
中の狀況。

を除く事業費に對し、著大橋梁（長良、揖斐兩大橋）に對し三分の二、其の他道路（小橋梁を含む）事業費に對し二分の一の國庫補助

を受くるものなり。（伊勢電氣鐵道株式會社の負擔に屬すべきものを除く）

國 庫 補 助 一 覽

| 種 別 | 昭和五年度 | 同 六年度 | 同 七年度 | 同 八年度 | 同 九年度 | 計 |
|-------------------|-----------|----------|------------|-----------|-------|------------|
| 失業救済補助 (社 會 局) | 5,920.00 | 6,080.00 | 251,234.99 | 32,000.00 | — | 295,234.99 |
| 道路改良補助 (土 木 局) | 10,000.00 | 5,000.00 | 10,000.00 | 10,000.00 | — | 35,000.00 |

（備考） 本表金額は受入済に屬する決算額を示す。

六、労働者使用の実績

本事業の實施に依りては、之が事業の本旨に基き、力めて機械の使用を避け、可及的救済者の就勞を多からしむると共に、本事業目的遂行上特別の考慮を拂ふの必要を認め、現場監督員を數次會合せしめ左の方針の下に施行せり。

- イ、失業者は特に生活困難なる者を優先就勞せしむること
- ロ、成るべく多數の労働者を使用するため、器械力を必要の最少限度に止め、夜業歩増等は止むを得ざる場合を除き施行せざること
- ハ、就勞に際しては其の失業者なりや否や、又は救済を必要とする者なりや否やは市町村、警察、職業紹介所、奉仕委員（方面委員）等の協力的活動に依り、之れが認定に遺憾なきを期したり。
- ニ、労働者就勞の便を計り、現住所より就勞地迄の三等汽車賃實費の二分の一を交付し、就勞を容易ならしめたり。
- ホ、就勞者にして近接地の者は通勤せしめたるが、遠距離の者に對しては、單身宿舍、家族宿舍の二種のバラックを建設し無料收容せり。
即ち稻葉郡加納町地内に單身宿舍（稻葉寮、金華寮、第一家族舎、第二家族舎）稻葉郡の墨江村地内に單身宿舍、大垣市藤江町地内に單身宿舍計六棟、之れに附

屬し飯湯、娛樂室、浴室、便所計 568 坪 38 を設備し就勞に便せり。

- ヘ、就勞者の統制及修養並親睦を計る爲、班長、組長を設け連絡機關となし、毎朝就勞前服裝、其の他を點檢し、皇居に向ひ遙拜せしめ又宿泊所の宿泊者に對し夜間を利用し時々講師を招聘し修養講話或は簡易なる土木講話を催て社會教育に努め、圍碁將棋等の娛樂器具を備へ、慰安又は相互の親睦を計りたり。
- ト、就勞者をして生活安定を計る一助とし飯場を經營し特に榮養に留意し一食十錢宛を以て供給せしめたり。
- チ、労働賃金の仕拂は關係吏員に現金を前渡し、日拂の方法を採りたり、請負工事に對しても同様の取扱をなさしめたり。
- リ、労働者實役時間は季節に依り、九時間半乃至十時間と定め尙降雨雪の場合のために天幕等を用意し作業に便ならしめ、多少の勞銀を得せしむる様努めたり。

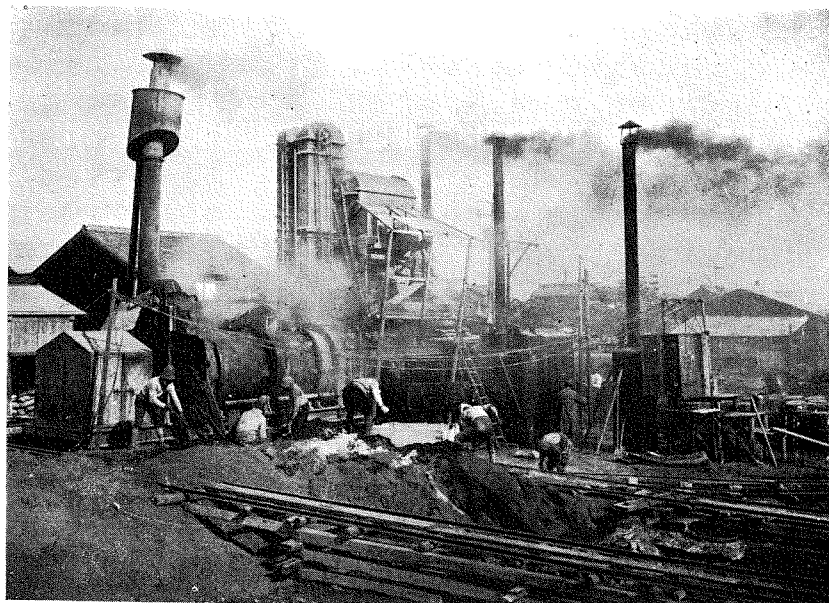
以上の方針の下に労働者の就勞に便せし結果、何等の騷擾もなく、日々愉快に就勞する事を得せしめ、工事は頗る順調に進捗せしむるを得たり。支出したる勞力費金 967,756 圓 61 錢にして、事業費支出額金 3,141,189 圓の三割強に當り、使役したる労働者の延人員 844,257 人に達し使用豫定人員 796,200 人を超過すること、實に 48,057 人を算し初期の目的を充分達成することを得たり。年度別成績は次の如し。



(16) 稲葉郡鶉村地内、アスファルト乳劑舗装仕上げ工事の實況。



(17) 大垣市都市
計畫區域(幅員14米
60)終點附近トペカ
式舗装工事の實況。



(18) 舗装工事に
使用せるプラント機



(19) 賃銀を受けとる労働者（稲葉郡加納町三里
修築事務所）



(20) 飯場にて晝食中の労働者（三里飯場）

労働者使用成績及労働賃銀支拂額

| 種 別 | 昭 和 五 年 度 | | 同 六 年 度 | | 同 七 年 度 | |
|------------|-----------|----------|---------|------------|---------|------------|
| | 人 員 | 金 額 | 人 員 | 金 額 | 人 員 | 金 額 |
| 職業紹介所利用のもの | 9,095 | 9,763,35 | 347,785 | 360,973,37 | 204,274 | 249,597,90 |
| 其 の 他（直備者） | 3,618 | 3,426,86 | 40,993 | 76,174,62 | 34,995 | 44,378,34 |

| 種 別 | 昭 和 八 年 度 | | 同 九 年 度 | | 計 | |
|------------|-----------|------------|---------|-----------|---------|------------|
| | 人 員 | 金 額 | 人 員 | 金 額 | 人 員 | 金 額 |
| 職業紹介所利用のもの | 126,791 | 154,774,72 | 29,705 | 31,667,60 | 717,650 | 806,776,94 |
| 其 の 他（直備者） | 21,671 | 28,107,22 | 5,386 | 8,882,63 | 126,607 | 160,979,67 |

七、改 築 の 効 果

本國道は美濃平野を東より西に走る我が國交通上重要なる幹線にして又岐垣連絡の要衝に當り、經濟上の使命極めて重大なるものなり。然るに舊國道は延長4里32丁（19,552米）路線悪しく屈曲多く、省線との平面交叉ニテ所、幅員亦狭少にして自動車の通行自由ならず維持費の累増、通行者の不便、不快は忍び難きものなりき、特に長良川に架設する合渡橋は腐朽甚しく荷重及速度を制限し僅かに事なきを得つゝあり、斯の如き状態は本縣の發展を阻害するのみならず延いては國力の消長にも至大の影響を及ぼすを以て喫緊の要として是れが改築の待望せらるゝこと久しきものありき、然るに失業救済事業として昭和五年十二月工を起し昭和十年三月に至る四ケ年四ヶ月の星霜を経て漸く竣功せり。

本工事は構造堅牢、外觀又爽美にして、往時をしのぶ松並木の舊國道の過去のものとなし、平々坦々白の一線延長3里13丁（13,782米）幅員24米乃至10米の近代的鋪裝道路と化し、且中間の長良、揖斐兩川に架する橋梁は其の幅員、使用鋼材量等近隣に比なき豪壯橋にして交通機間の利用に適應せんとす、従つて將來岐阜、大垣兩市は産業文化に緊密なる提携の楔となり、交通不完成なる西濃地方に完全なる、東西幹線を得舊地方の一大改革を來すの因をなし、且長良、揖斐兩川の間里餘を迂回に依るか又は渡船に依り辛じて交通を充たしたる沿道町村民も期せずして此の惠澤に浴し、目下叫ばれつゝある名敦線の一部として北滿との交通愈々重要化しつゝある秋一層其の重大さを加へ、更に本道路を以て産業の發達文化の進展、將文軍事に寄與する處側り知るべからざるものあるを信ず。